

日本経営学会第94回全国大会

統一論題 趣旨

(1) テーマとサブテーマ

テーマ：日本の経営学者はどこに向かうべきかー「世界標準」の経営学と日本の経営学ー

サブテーマ1 「世界標準」の経営学とはどのようなものか。それは進んだ研究なのか

サブテーマ2 日本の経営学研究は遅れた研究なのか

サブテーマ3 日本の経営学者はどのような方向を目指していくべきか

日本の経営学者はどこに向かうべきか ー「世界標準」の経営学と日本の経営学ー

(2) 統一論題の趣旨

近年、英国のザ・タイムズ・ハイアー・エデュケーション（THE）などの評価会社によって、世界大学ランキングが公表されるようになった。そして、これによって日本の大学のランクの低さが明らかになった。このことから、日本の大学は世界から遅れているのではないか。世界から取り残されているのではないか。そういった疑念が生まれている。

こうした状況で、日本政府もこれを問題視し、日本の大学に世界ランキング100位以内に入ることを強く要望するとともに、日本の大学にグローバル化を進めるよう強く促している。より具体的にいえば、世界ランキングを上げるために、できるだけ多くの外国人学生を受け入れ、英語での講義を増やすように要請している。また、大学教員に対しても、英語で講義をすることのみならず、欧米の英語ジャーナルに論文を投稿し、掲載するよう、圧力がかかっている。

このような流れは、今日、経営学分野でも起こっている。いま、欧米の有名英文ジャーナルに論文を掲載することを目指す経営学研究を「世界標準」の経営学と呼ぶとすれば、この「世界標準」の経営学と比べると、日本の経営学は遅れているのではないかという疑問が、欧米帰りの日本人研究者たちから投げかけられている。また、日本のビジネスパーソンも日本の経営学は遅れているのではないかという疑念を持ちはじめている。そして、何よりもこのような流れに影響を受け、今日、多くの若手研究者たちが日本の学会誌よりも欧米の英文ジャーナルに論文を投稿することに関心を持ちはじめている。

こうした傾向に対して、日本の経営学は決して遅れているのではなく、日本企業には固有の経営上の特徴と問題があり、それを解明し解決することが日本の経営学者の役割ではないかと考える国内志向の学者もいる。世界の動きにひたすら迎合するのではなく、日本の企業経営には英語では表現できないような日本独自の経営の強みや弱みがあり、日本の経営学者はそれを研究し、日本企業に貢献する必要があるという。

以上のような問題状況のもとに、本大会の統一論題では、世界的ジャーナルに英語論文を数多く掲載しているいわゆる海外志向の経営学者たちと日本国内での研究に重きをおいている国内志向の経営学者たちに登壇してもらい、(1)果たして「世界標準」と呼ばれる経営学は本当に進ん

でいるのかどうか。(2)日本の経営学者や日本の経営学界は世界標準にくらべて遅れているのかどうか。(3)今後、日本の経営学界や日本の経営学者はどういった方向に進むべきなのか。これら一連の問題に対して討論し、議論し、そして考えてみたい。

(3)サブテーマ

1「世界標準」の経営学とはどのようなものか。それは進んだ研究なのか

欧米の有名英文ジャーナルに論文が掲載されることを目指す経営学研究、つまり「世界標準の経営学」とは、具体的にどのようなものなのか。今日、どのような研究論文が世界的なジャーナルに掲載されやすいのか。このセッションでは、これまで世界的なジャーナルに論文を掲載してきた日本の経営学者たちに登壇してもらい、世界標準の経営学研究とは具体的にどのようなものかを報告してもらうとともに、日本の経営学は遅れているのかどうか、日本の経営学者はそのような世界標準の経営学を目指すべきなのかどうか、についてもコメントしてもらい、議論してみたい。

2日本の経営学研究は遅れた研究なのか

欧米と異なり、日本では、これまでジャーナル論文よりも著書が高く評価されてきた。日本の経営学者のみならず、ビジネスパーソンにも広く受け入れられ、読まれている独自の著書を出版している日本の研究者の研究を「日本の経営学」と呼ぶことができるだろう。このセッションでは、そのような研究を行っている日本の経営学者たちに登壇してもらい、彼らが研究している研究とは具体的にどのようなものかを報告してもらうとともに、このような研究を続けていくことは世界から取り残され、遅れていくことにならないのかどうか、これらについてもコメントしてもらい、議論してみたい。

3日本の経営学者はどのような方向を目指していくべきか

最後に、日本の経営学者は、今後、世界的な英文ジャーナルに投稿し、世界の潮流に従って世界標準の研究を目指すべきなのか。あるいは、世界の潮流に囚われずに、日本企業固有の強みや弱みを研究し、その特殊性を世界に発信していくべきなのか。このセッションでは、日本を代表する主要な経営学者に登壇してもらい、日本の経営学をめぐる現状をどのように認識し、今後、日本の経営学者はどのような方向を目指していくべきかについて個人的な意見について述べてもらい、パネルディスカッションしてもらおう。